

1 通信教育の概要

1 目的

本通信教育は、主として知的障害のある人が利用する障害者施設・事業所において知的障害児・者の支援・援助にあたる専門職員の養成を行うことを目的としています。

2 受講資格

受講資格は、次のいずれかに該当することが必要です。

- (1) 学校教育法に基づく大学・短期大学卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で1年以上その業務に従事した者。
- (2) 学校教育法に基づく専修学校の専門課程【修業年限2年以上のものに限る】(専門学校) 卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で1年以上その業務に従事した者。
- (3) 学校教育法に基づく高等学校卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で2年以上その業務に従事した者。
- (4) 学校教育法に基づく専修学校の高等課程(高等専修学校) 卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で2年以上その業務に従事した者。
- (5) 本会が実施する「知的障害を理解するための基礎講座」修了者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で2年以上その業務に従事した者。
- (6) 知的障害援助専門員養成通信教育(平成12年度以降)を受講した者で、未修了の者。

※実務経験については、2023年3月31日現在で定められた年数を満たしていなければなりません。

※人材育成・研修委員会が定める実務経験については、16ページを参照してください。

※非常勤職員は、下記の条件をすべて満たしている場合に実務経験として該当します。

- A. 正職員と比べて3/4以上勤務している。
- B. 施設長もしくは法人理事長の証明がある者。

3 定員

450名

4 募集期間

2022年11月1日～2023年2月末日(定員になり次第締め切り)

5 受講期間

2023年4月1日～2024年3月31日

6 受講料

受講料(上記2.受講資格の(1)～(5)に対応) ■会員施設職員 66,000円 一般 69,000円
再受講料(上記2.受講資格の(6)に対応) ■会員施設職員 53,000円 一般 56,000円

※受講料には、テキスト代およびスクーリング受講料が含まれます。

※再受講料には、テキスト代は含まれません(スクーリング受講料は含まれます)。

※一度納入された受講料は返金できませんので注意してください。

2 受講内容等

1 教 科 目

- ①知的障害者福祉総論
- ②知的障害者援助技術
- ③事例研究
- ④知的障害を伴う自閉症スペクトラム
- ⑤知的障害者の心理
- ⑥知的障害者の医療
- ⑦知的障害者の生活支援
- ⑧障害福祉事業のマネジメント
- ⑨知的障害の併存症（重複障害）

2 履修内容

①自宅学習

- ・本講座専用のテキスト（9科目）を用いて学習します。
- ・科目ごとに指定課題に沿ってレポートを作成し、所定の期日までに提出します。
- ・レポートは、1科目につき原稿用紙5枚（1800～2000字）です。
- ・レポートには講師の評価・講評を付して返却します。

②スクーリング

●スクーリングの内容について

- ・9科目の講義および各教科のテストを実施します。
- ・学識経験者や各分野のスペシャリストが講義を行います。

●実施方法について

- ・新型コロナウイルス感染症による状況に応じ、今後決定します。
- ・直接会場に集合する対面による開催や、インターネットを活用した方法などを検討しています。

再受講について

再受講は30～52期の受講生で、修了判定で「未修了」となった方が対象です。

なお、再受講では新たに、全科目の「レポート提出」「スクーリングへの出席」「受験」が必要となります。

再受講料には、テキスト代は含まれません。受講の際は以前に購入されたテキストを使用してください。なお、希望者は最新テキストを1冊あたり1,000円（税・送料込み）で購入することができます。

3 修了判定

レポートの評価、スクーリングの参加および試験の成績により総合的に行います。

修了判定を受けるためには、全科目の「レポート提出」「スクーリングへの出席」「試験」が必要です。

■学習計画（予定）

学習期間	学習教科（レポート提出教科）	学習期間	学習教科（レポート提出教科）
4/1～4/10	準備期間（教材到着）	8/11～10/10	⑥知的障害者の医療 ⑦知的障害者の生活支援
4/11～6/10	①知的障害者福祉総論 ②知的障害者援助技術		
6/11～8/10	③事例研究 ④知的障害を伴う 自閉症スペクトラム ⑤知的障害者の心理	10/11～12/10	⑧障害福祉事業のマネジメント ⑨知的障害の併存症（重複障害）

- ・レポートの提出期限は、あらかじめ日程が決まっています。
- ・レポートの評価は、各科目担当講師が行います。

■スクーリング実施予定

●実施期間

2024年1月（予定）

●実施方法

- ・新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、今後決定いたします。
- ・会場に集合する対面による開催やインターネットを活用した方法などを検討しています。

●実施内容

- ・スクーリングの講義は、各科目担当講師が行います。
- ・講義内容とテキストより出題する試験を行います。

●その他

- ・インターネット環境の整備について

諸事情により、インターネットを活用したカリキュラムに変更する場合があります。

例として、講義動画の視聴、Web会議システムを活用した授業等が挙げられます。何れも通信量が多くなるため、パソコン、タブレットやスマートフォンといったインターネット機器ならびに、通信量無制限のプランにする等、インターネット環境を整備されることをお勧めします。

※インターネット機器につきましては、パソコンを推奨します。

■53期生講師一覧（予定）

科目名	講師名
①知的障害者福祉総論	小澤 温（筑波大学） 谷口 泰司（関西福祉大学） 矢野 明宏（東京通信大学）
②知的障害者援助技術	白石 孝之（社会福祉法人彩明会） 鈴木 良（同志社大学） 高橋 智秀（社会福祉法人みずほ厚生センター） 矢島 雅子（京都ノートルダム女子大学）
③事例研究	川口 豊（社会福祉法人天王福祉会） 長澤 正樹（新潟大学） 森 公男（社会福祉法人まちのひ）
④知的障害を伴う 自閉症スペクトラム	志賀 利一（社会福祉法人横浜やまびこの里） 譲田 和芳（合同会社オフィスぼん） 田熊 立（千葉県発達障害者支援センターCAS） 中野 伊知郎（社会福祉法人侑愛会）
⑤知的障害者の心理	飯田 昭人（北翔大学） 齊藤 宇開（たすく株式会社） 佐々木 新（川崎医療福祉大学） 平野 晋吾（福山市立大学） 福島 寿美子（たすく株式会社）
⑥知的障害者の医療	相崎 貢一（シャーロットこども発達クリニック） 片山 雅博（社会福祉法人旭川荘） 鴨下 加代（県立広島大学） 土路生 明美（県立広島大学）
⑦知的障害者の生活支援	金丸 博一（コンサルテーションサポート森の入り口） 佐野 和明（社会福祉法人愛育会） 松永 千恵子（国際医療福祉大学）
⑧障害福祉事業のマネジメント	榎本 則幸（東京通信大学） 新妻 登（特定非営利活動法人地域福祉ネットワーク） 松下 直弘（社会福祉法人岩崎学園）
⑨知的障害の併存症（重複障害）	池上 陽子（社会福祉法人日本心身障害児協会） 豊田 隆茂（社会福祉法人日本心身障害児協会） 野村 万季（相模原市立陽光園）

(50音順)

修了生からの一言

三重県／生活介護ステーションTOINあーち 安居 良香

就職した頃は毎日新しいことに出合っては迷い、困り、考える日々でした。しかし勤続年数が20年を超え、利用者ともすっかり顔なじみになり、なんとなく日々を過ごしていることに危機感を覚えました。新しいスタッフには、「経験と勘と度胸」だけの指導をするわけにはいかない、根拠のある支援の方法を指導しなくてはいけないのにその素地が私にはない、と不安になりました。それが私の受講の動機でした。

レポート作成は久しぶりのことで、時間を作ることに苦労しました。レポート課題は実践を踏まえて考察することが求められます。事例を言語化し、テキストの知見を理解して、自らの支援や事業所の課題を分析していきます。「どこかのたれか」の支援ではなく、「私の担当利用者さん・私の施設」を思い浮かべて考察を深めていくとよいと思います。今までぼんやりととらえていた利用者像を言語化することにより、自分の偏った見方に気付いたり、見えていなかった利用者側からの視点が見えてくることもありました。書くことによって自らの支援を客観視することができたのだと思います。テキストを読んで、課題に気付き、知らなかった分析方法や知識に出会い、視界が開ける気持ちにもなりました。レポート作成は大変ですが、明日からの支援がきっと変わる、見え方が変わる、と取り組むとよいと思います。

また、講師の先生方からのコメントが「先生と生徒」というだけでなく、受講生である私を「福祉を担うなかま」として激励してくださっているのがとてもうれしく、ともすれば狭い世界で凝り固まってしまうような現場でも「ああ、全国にこうして先達が居て、つながって明日の福祉を創っていくのだな」と仕事へのやる気につながったことを覚えています。

テキストの勉強法としては、紙面の両サイドの余白に、難しい言葉とその定義を書いておくようにしていました。また、文章が長く続いてわからなくなってきたら、その文章を図や表などに変換してノートに書くようにしました。テキストの濃いエッセンスを自分なりの方法で消化していくことが必要でした。図書館で関係する書籍を見つけて視野を広げることもできました。

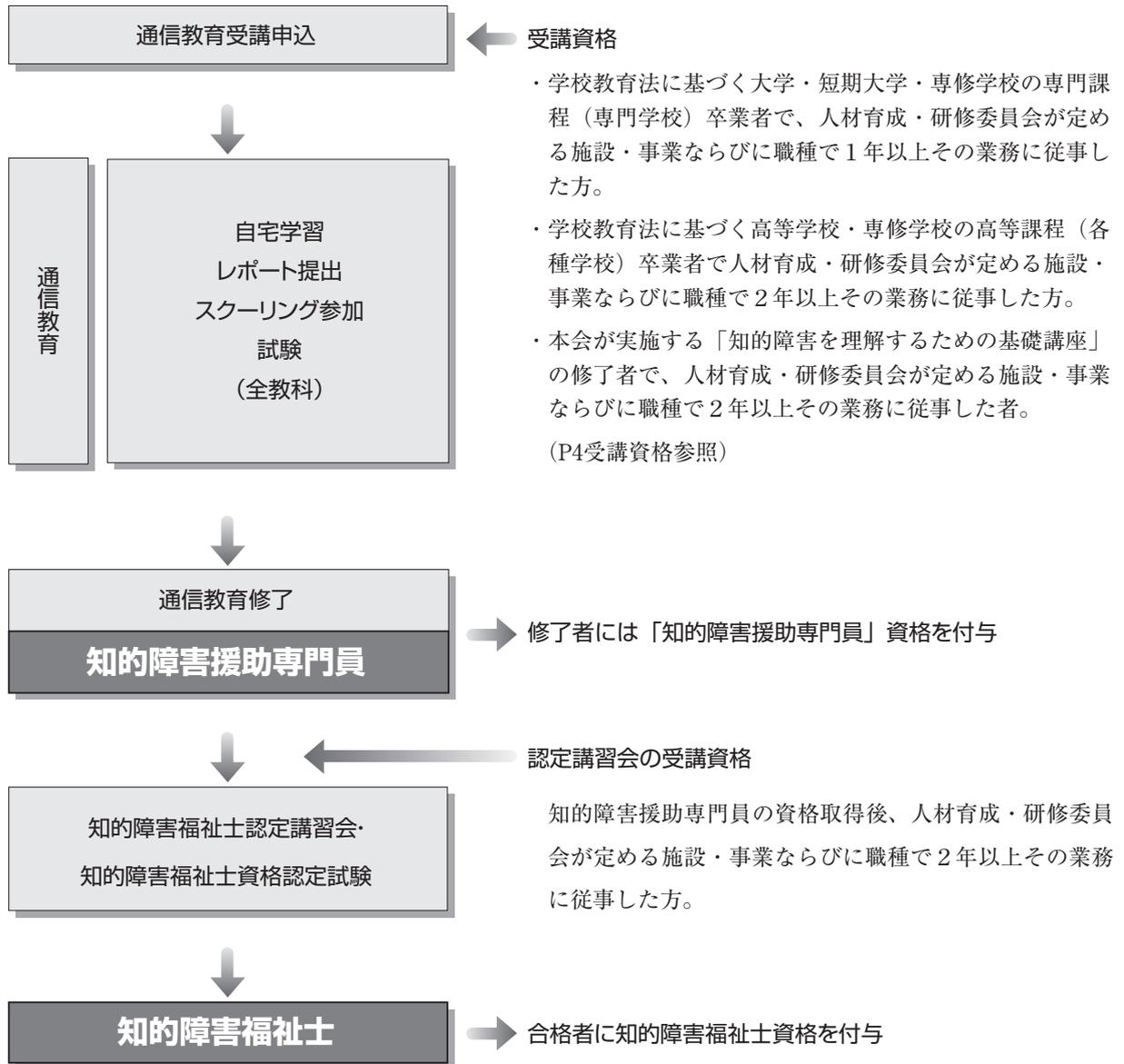
通信教育を修了し知的障害援助専門員を取得しましたが、これはゴールではなくスタート地点だと思っています。自分の仕事の奥深さを再発見させてくれること、対面でのスクーリングではありませんでしたが全国のなかまの存在に気付かせてくれること、これがこの通信教育の魅力です。

(令和4年度通信教育ニュースより)

3 資格の付与について

本通信教育修了者には「知的障害援助専門員」の資格が与えられます。

■資格認定への過程



知的障害援助専門員とは

知的障害のある人が利用する障害者施設・事業所において知的障害児・者の支援・援助にあたる専門職員として本協会が認定する資格。

知的障害福祉士とは

知的障害のある人が利用する障害者施設・事業所において知的障害児・者の支援・援助に係る計画の策定・調整等とともに、支援・援助にあたる職員に対して助言・指導等を行う専門職員として本協会が認定する資格。

4 申込手続き

1 募集期間

2022年11月1日～2023年2月末日（定員になり次第締め切り）

2 提出書類等

①受講申込書（19頁の所定用紙）

②実務経験証明書（21頁の所定用紙）

※再受講の方は提出の必要はありません。

③承諾書（23頁の所定用紙）

④証明写真（縦4cm×横3cm）2枚

⑤受講許可通知返信用封筒（定型郵便サイズの封筒（長形3号）に84円切手を貼り、ご自身の住所・氏名をご記入ください）

3 提出方法

上記①～③の提出書類に必要な事項を記入し、④証明写真と⑤受講許可通知返信用封筒（長形3号）を、提出書類送付用封筒（角形2号）に必要な送料分の切手を貼付けし郵送ください。

※本会ホームページより受講案内をダウンロードした場合は、「⑤受講許可通知返信用封筒（長形3号）」ならびに「提出書類送付用封筒（角形2号）」はご自身で用意ください。

4 受講の決定

提出書類の審査を行い、受講資格を満たしている方に受講手続き（受講許可証および郵便払込取扱票）のご案内をします。受講料の納付をもって受講の決定となります。

5 提出書類の記入要領

1 受講申込書

- ①受講申込書記入例（12頁・13頁）を参考にして必要事項をもれなく記入してください。氏名の欄に必ず押印してください。
- ②最終学歴は卒業した学校名、学部・学科名、卒業年月まで正確に記入してください。
- ③勤務先は現在の勤務先を記入してください。
- ④施設・事業の種類、および職種は16頁の表を参考にして記入してください。なお、コードは17～18頁コード表を参照のうえ記入してください。

2 実務経験証明書

- ①受講申込時に必要な実務経験を実務経験証明書記入例（14頁・15頁）を参考に、必要事項をもれなく記入してください。
- ②施設（事業）の種類、および職種は16頁の表を参考にして記入してください。
- ③事業所の異動等により、実務経験証明書が複数になる場合には、必要枚数をコピーして記入してください。
- ④実務経験証明書の勤務期間を見込みとして提出された方は、4月以降に証明書を再度提出していただきます。
- ⑤再受講の方は、実務経験証明書の提出は必要ありません。

3 承諾書

- ①通信教育を受講するにあたり、承諾書（23頁）を提出していただきます。
- ②承諾書の記載内容を確認したうえで、日付・住所・氏名の記入および押印をし、提出してください。

4 受講許可通知返信用封筒

返信用封筒（定型郵便サイズ【長形3号】）に84円切手を貼り、返送先の郵便番号、住所、氏名を記入してください。提出書類を本会ホームページよりダウンロードした場合は、返信用封筒（定型郵便サイズ【長形3号】）はご自身で用意ください。

5 証明写真

縦4cm×横3cmの証明写真を2枚用意してください。（無背景のもの）

- ①1枚は受講申込書の所定の位置に貼付してください。
- ②残りの1枚は裏面に都道府県名・氏名を記入し同封してください。（受講証用）